

# 館長からのご挨拶

兵庫県立人と自然の博物館 館長

## 中瀬 勲



前回のひとはくレポート(2012-16)では、「いよいよ、ようやく25年…」から挨拶文をはじめました。この度(2017-21)は「開館30年、成熟した博物館になりました!」が冒頭に相応しいフレーズと考えました。

本レポートでは、過去5年間のひとはくの取り組みを「5つの重点アクション」と「36プロジェクト」で紹介しています。いずれもが、開館以来30年にわたって、館員の皆さんが地域の方々と共に、着々と現場で積み上げてきた協働の成果です。重点アクションの最初に、30周年の節目に「コレクションナリウム(新収蔵庫棟)」の完成が紹介されています。ニュータウンに位置するひとはくの収蔵庫として、収蔵機能に加えて、地域交流、活性化の場としての新機能が問われています。わが国で初の試みとして、ひとはくならば大いに展開できるものと思います。ご期待ください。

一方で、2020年からの3年間、変異を繰り返す新型コロナウイルスの爆発的な感染拡大の影響で、館の運営上、誰もが経験したことのない事態になりました。当初、館の閉鎖がありました。その後、開館しても、来館者・職員などの消毒、部屋の換気、社会的距離の維持、セミナー開催方法の工夫、SNSを用いた情報発信などを継続的に行いました。これらに関しても、ひとはくならではの工夫で対応してきました。

この新たな世界的な感染症の拡大と共に、地球温暖化に伴う異常な気象現象が顕著になっています。ひとはくは、自然・環境の研究・実践を基礎に行動してきました。今後、その役割がますます重要になってきます。これまで30年間、県民、行政・民間、NPO・NGOなどの皆様から多くのご支援、ご指導、ご協力を頂きました。厚くお礼申し上げます。そして、今後も、どうかよろしく願い申し上げます。

## 目次

### 館長からのご挨拶

01 ひとはくの使命と目指す博物館像

02 5つの重点アクション

12 36プロジェクト

30 ひとはくのこれから

31 数字でみるひとはく

35 組織体制・施設概要・予算額

36 ひとはくの歩み

40 研究員紹介



深田公園からのひとはく外観

# ひとはくの使命と目指す博物館像



## ひとはくミッション

ひとはくは  
**「地域を愛する心をはぐくみ、地域の自然・環境・文化を未来へ継承する」こと**  
 を使命とし、  
**「創造と共生の舞台・兵庫で県民のみなさんと共演する生涯学習院※」**  
 の実現を図っています。








1. 変化する社会状況に対応する
2. 研究 - シンクタンク事業を強化する
3. 好奇心を刺激し、学び続ける仕組みを提供する
4. 担い手を育成し、活動の場を創造する
5. 多様な主体と連携し、地域づくりに貢献する

※生涯学習院：すべての人の「生涯学習」を支援することを目的とした仕組みや組織、およびそれが果たす機能の総称。

本レポートには、ミッションを実現するためのひとはくの取り組みを具体的に紹介しています。

### 5年間の重点アクション

 新収蔵庫棟 「コレクションナリウム」の建設→p.2	 ひょうごエコロボプロジェクト →p.4	 恐竜化石関連事業 →p.6	 Where culture meets nature 展 の開催 →p.8	 コロナ禍における 博物館活動の推進→p.10
---	---	---	---	--

### プロジェクト群※

<b>研究 p.22-p.25</b> 生涯学習と地域に貢献する 研究を推進する 本レポートに掲載しているプロジェクト(例)  和泉層群の恐竜化石・ヤマトサウルス → p.22  ヒアリ → p.22	<b>生涯学習・アウトリーチ p.12-p.15</b> みんなの「学びたい」にこたえる 本レポートに掲載しているプロジェクト(例)  「ゆめはく」によるアウトリーチ → p.12  「そとはく」「えんがわミュージアム」 → p.13	<b>パートナー・連携 p.16-p.18</b> 夢の実現に向けて共に歩む 本レポートに掲載しているプロジェクト(例)  有馬富士公園との連携 → p.16  人と自然の会 → p.16
<b>資料 p.26-p.29</b> 地域の財産を保管・活用し未来に継承する 本レポートに掲載しているプロジェクト(例)  標本のミカタ → p.26  毎月かわるよ!江田コレクション展 → p.27	<b>シンクタンク p.19-p.21</b> 専門性を活かして地域づくりをリードする 本レポートに掲載しているプロジェクト(例)  ユネスコ世界遺産登録に向けた学術支援 → p.20  民間企業の生物多様性に関する取り組みの支援 → p.20	 恐竜化石ボランティアとの連携 → p.17  施設連携によるジーンバンク事業 → p.17  イヌワシ観察者との連携 → p.18  地域研究員と連携活動グループ → p.18